

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶ 6 ◀

保護者への報告、進路の相談、家庭環境を知る



◆山田耕二（やまだ・こうじ） 1942（昭和17）年5月23日生まれ、73歳。74年、西陵商ラグビー部監督に就任以降29年間で全国高校ラグビー大会に19回出場、97年には愛知県勢として史上初の優勝。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

「〇〇社に就職するにはラグビーだけ頑張っていてはだめだ。他のこともこれだけ頑張ろう」。親子で共通の目標に向かって、課題を共有してもらおうこと。

練習が終わった後の家庭訪問は毎日、1軒ずつ回っていた。生徒の自宅は名古屋市内だけではなく豊田市などの近隣市町村から来ていた生徒もいた。彼らの家に行く時は私の車に乗せて、一緒に家まで向かった。道中、1対1でいろいろな会話をした。「最近調子はどうだ」「誰

かにいじめられてないか」「チームの中で、他の生徒に無理強いをしているやつはいないか」「そつえばこの間、課題を忘れて〇〇先生に呼び出しを食らったそつじゃないか」

時間にして数十分から小一時間。他愛もない会話だが、1対1で話をしていくこと。家庭訪問の目的は主に3つ。まず生徒の現状を保護者に伝えること。「毎日練習頑張ってます、もう少してレギュラ

で、生徒たちは「自分のこと」に上がれますよ」などと、気をかけてくれている」と少しでも成長している姿を、気持ちがあほぐれ、少しずつ心を褒めるポイントを報告する。次に将来の進路の相談。進

家庭訪問には3つの目的

◇

夜回りまでして高校日本一に導いた山田耕二さんと生徒とのエピソードを連載する。